

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成 18 年 6 月 15 日 (2006.6.15)

【公表番号】特表 2006-513798 (P2006-513798A)
 【公表日】平成 18 年 4 月 27 日 (2006.4.27)
 【年通号数】公開・登録公報 2006-017
 【出願番号】特願 2004-571147 (P2004-571147)
 【国際特許分類】

A 6 1 F 2/82 (2006.01)

A 6 1 B 17/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 29/00

A 6 1 B 17/00 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 4 月 5 日 (2006.4.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

身体内に内腔を形成する壁を有している血管の中にて、遠位側を保護するための装置であって、かかる装置が、近位端及び遠位端を有し、長手軸線を有してなる細長い管状部材と、近位端及び遠位端を有する拡張部材であって、細長い管状部材の遠位端に支持されて、半径方向に縮小した形態と拡張した形態との間において可動になっているような上記拡張部材と、半径方向に拡張した形態における拡張部材の少なくとも一部分を被覆するような変形可能な膜と、拡張部材の遠位端に結合された案内部材であって、近位端及び遠位端を有しているような前記案内部材と、前記拡張部材を半径方向に縮小した形態と拡張した形態との間にて動かすべく、細長い管状部材の近位端に支持されたハンドル組立体であって、細長い管状部材の近位端から脱着可能になっているような前記ハンドル部材と、を備えていることを特徴とする装置。

【請求項 2】

細長い管状部材の遠位端に支持されていて、拡張部材が半径方向に縮小した形態と拡張した形態との間にて動くとき、案内部材の遠位端に結合可能になっているような案内管をさらに備えていることを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記ハンドル組立体を細長い管状部材の前記近位端に対して固定するためのロック及びキーの機構をさらに含んでいることを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

拡張部材が半径方向に縮小した形態になっているとき、装置の横断面寸法が 0 . 0 1 0 ~ 0 . 0 4 0 インチの範囲であることを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 5】

半径方向に拡張した形態における拡張部材は複数の開口を備えていて、該開口を介して血餅物質が回収されることを特徴とする請求項 1 に記載の装置。

【請求項 6】

半径方向に拡張した形態における拡張部材は内部チャンバを備え、前記変形可能な膜は、拡張部材の近位端に重なるような少なくとも第 1 の開口を備えていて、血管中を流れる

血液及び血餅物質が前記チャンバに入ると共に、前記拡張部材に結合されたフィルタをさらに含み、該フィルタを通して前記チャンバから血液が排出されることを特徴とする請求項 5 に記載の装置。

【請求項 7】

前記フィルタは、前記変形可能な膜によって支持されてなる複数の微小孔を含んでいることを特徴とする請求項 6 に記載の装置。

【請求項 8】

前記複数の微小孔は、拡張部材の遠位端に重なっていることを特徴とする請求項 7 に記載の装置。